

令和2年度 社会福祉法人 麩城会 事業計画

昨年、元号が令和に変わり、新しい時代の幕開けと言われることが多い一年でした。しかし、今現在、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、日本国内の複数地域においても感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、国民に大きな不安や動揺が生じています。

介護福祉業界では、社会福祉施設等における新型コロナウイルスへの対応、感染拡大対策として、連日、厚労省から通知等が出ています。普段からインフルエンザの感染対策等をしている介護施設からすれば当たり前のことばかりですが、実態の掴めない、何が正解かは見えない状況では、こうした基本的な対応をしっかりと実践する然るべき状況だと思います。

さて、昨年を振り返ると、令和元年度10月の消費税2%アップにより、応じた介護報酬の微改定が行われ、その目玉として、介護人材の確保、定着の重要性から新たに特定処遇改善加算が始まりました。しかし、当初より期待した効果は、残念ながら今のところ現れてはおりません。

厚生労働省の推計によると、高齢化がピーク期を迎える2040年度にはおよそ505万人（2018年度比で171万人増）の介護職員が必要になります。これは就業者全体の8.9%を占める規模で、医療職や福祉職まで含めると、就業者全体の18.8%にのぼるマンパワーが必要になると推計されています。

また、財務省は、医療と介護の費用の膨張が続いている現状から給付を維持していくことは、持続可能な制度として成り立たない、給付費の伸びをできるだけ抑えていく努力が欠かせないとしています。

膨らむ給付や深刻化していく人手不足においては、少ない人数で質の高いサービスを提供するために生産性の向上を図るしかないとして、センサーやAI、ICTの活用、ペーパーワークの負担軽減などに力を入れる必要があると方向づけされています。併せて、いわゆる“元気高齢者”など多様な人材の活用、外国人材の受け入れ、より働きやすい環境の整備、経営の大規模化、科学的介護の推進といった種々の施策を総合的に展開していくべきと指摘しています。

どちらにしても、賛否両論あり、今後、介護職員の賃金を更に大きく引き上げることも難しく、人手不足を解消する特効薬も見当たりませんが、あらゆる方策を同時並行で全て取り組み結果を出していかないと現状を軽減、安定させることはできません。

令和2年度も利用者様、ご家族様、地域の皆様のセーフティネットとしての役割を安全且つ継続して、より良いケアの提供に職員一同努力を続けること、そして、安全・安定な経営に努めて参ります。

同時に、法人で働くすべての職員のために「働きやすさ」を求める環境づくりがとても重要になります。今年度は、働く人にとって働きやすい環境とは何か、実現に向けて運営を併せて努めていきます。

様々な課題を踏まえて、以下の通り、取り組んで参ります。

<行動目標>

1. 人事管理

1) 人材の安定的な確保（重点）

①介護等従事者の雇用確保（PR、派遣、紹介活用）

<令和2年度採用予定者>

介護職員：4／1. 新卒者3名（介護福祉士2名：高卒・専門卒、資格なし1名：高卒）

正看護師：4／1. 2名

調理師：4／1. 1名

- ・新卒者の確保、中途採用の雇用促進
介護職員（特に介護福祉士）、厨房職員（パート）、理学療法士・作業療法士など

- ・外国人介護人材の受け入れ
技能実習生制度活用（7月頃来所予定、ミャンマー人4名）
令和3年度に向け採用（2～3名）のため渡緬（ミャンマー訪問）

- ・離職者のフォロー（離職者近況の継続的把握）

②職員の離職防止（目標管理や個別面談、随時相談の実施）

- ・処遇の改善（福利厚生の実施）

③喀痰吸引研修（介護職員）、喀痰吸引研修指導者研修（看護師）、初任者研修、介護福祉士資格取得者、認知症実践者・リーダー研修、認知症対応型サービス事業管理者研修の支援・確保促進

- ・資格取得のために要する金銭的支援（貸付制度）

2) 介護等人材の資質向上（重点）

- ・介護キャリア段位制度の確立（個人の知識と実践技術、仕事を通して実践スキルのレベル評価）
- ・新人職員の研修体制の充実（OFF-OJT,OJT のプログラム見直しと再作成）
- ・中堅職員研修（スキルアップ、次期指導者の養成カリキュラム）

2. 職員教育システムの充実（人材のスキルアップ）

1) 施設内研修

階層別研修

- ・新入職員研修（基礎研修）、フォローアップ研修、中堅職員研修、指導者研修（リーダー）、管理者研修（主任、課長）、分散研修（OJT）
- ・技術的研修（介護技術、緊急時の対応、感染症対策、喀痰吸引等）
- ・全体勉強会（毎月）の充実（内部・外部講師の活用、全職員対象）

2) 施設外研修

- ・専門的研修（OFF-OJT）
- ・認知症実践者・リーダー研修、実習指導養成研修、介護支援専門員、喀痰吸引等の研修、看護・介護・相談員のスキルアップ研修、介護キャリア段位アセッサー研修、その他（自己啓発研修の支援）

3) 実習生の指導体制

- ・資格別の受入・指導体制の充実

介護福祉士、社会福祉士、初任者研修、管理栄養士、歯科衛生士、インターンシップ、失業者対策等

3. 改修工事及び設備機器の修理・更新

1) 従業員の負担軽減

- ・特養

セミモジュラー車椅子3台、チルト&リクライニング車椅子2台、低床3モーター電動ベッド10台、リハビリテーブル5台、回診車1台、ステンレスカート3台、クルーズカート1台、

2) 利用者の環境等改善

- ・特養・・・低圧分散マットレス20枚、高さ調整テーブル3台・食堂イス5脚
- ・グループホーム・・・サンシェード設置（2階ベランダ）

3) 設備・器具の新設・更新

- ・法人
勤務表作成ソフト導入
サーバー更新（保守付き）
施設中庭コウモリ駆除対策工事（法人）
- ・厨房
エアコン増設
- ・グループホーム
水道蛇口の設置工事（2階ベランダ）

4. 理念やニーズに基づく福祉サービスの実現

1) サービスの質の向上

- ・介護計画（ケアプラン）の充実（個別ケア、自立支援、生活視点を重点に置いたもの）
- ・家族会、満足度調査の実施・充実
- ・中長期計画策定委員会
- ・職場部署の研究発表（11月）

2) 法人情報の公開・発信（PR、透明性の確保）

- ・ホームページの充実（法人・事業情報の公開、利用者獲得、求人等人材確保多様な情報の発信）

3) 社会貢献（地域貢献）事業

- ・オレンジカフェ（コミュニティーカフェ）の継続運営

5. 経営基盤の強化及び整備の計画（重点）

1) 新設及び変更計画

①友江駅前土地開発計画

- ・複合施設建設計画（1F；地域密着型通所介護、2～3F・4F職員寮）

地域密着型通所介護（認知症対応型通所介護）：総合事業及び機能訓練特化型通所介護の実施

職員寮：20～30名入居

※介護職員の宿舍施設整備事業（新規）活用、建設費の1/3補助、令和2年度～5年度まで

②特別養護老人ホーム増床

10床増床（全90床）。短期入所20床の内、10床を特養に転換する

予定：令和2年4月1日～

2) 各事業の運営について（安定充実、加算の取得、利用率向上など）

①特別養護老人ホーム

- ・協力医療機関との連携強化
医療ニーズへの対応に関する見直し（確保と強化）
- ・ICT、IOT（タブレット）、介護ロボットの活用の検証

②短期入所生活介護（ショートステイ）

- ・ベッド数減少（10床）
- ・利用率の向上（特養空き室の有効利用）

③通所介護（デイサービス）

- ・利用者数及び利用率の向上（PR活動、情報収集）
- ・ADL訓練加算算定開始、リハビリの充実

④認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）

- ・入居率向上（PR活動、情報収集）
- ・地域との相互関係の強化
運営推進会議の充実、防災訓練、自治会との相互交流の促進
- ・地域密着型サービス外部評価受審（年一回）

⑤ケアハウス

- ・入居率向上（PR活動、情報収集）
- ・多様化に伴う入居範囲及び居室等の活用方法の検証

2) コスト削減

- ・人件費以外の経費の見直し（無駄の削減）、太陽光利用（発電・給湯）

3) BCP ハイブリッド型（事業継続計画）の策定、周知、訓練の実施

4) 職員の処遇改善、人材確保対策、及び適正な評価の仕組み

- ・キャリア段位制度の確立
- ・岐阜県介護職員育成事業者認定制度 グレード1 認定取得

6. 令和2年度 取組み内容

<利用者定員>

入所施設		居宅サービス			相談事業
特別養護老人ホーム	90名	短期入所生活介護 介護予防短期入所生活介護		10名	在宅介護支援センター
ケアハウス	30名	通所介護 介護予防通所介護	月～土	30名	居宅介護支援事業所 ケアマネ 4名
			日	25名	
		認知症対応型共同生活介護		18名	

<令和2年度 役員会>

- | | | |
|---------|-----------|----------|
| 第1回 理事会 | 令和2年5月中旬 | 友和苑地域交流室 |
| 第2回 理事会 | 令和2年10月中旬 | 友和苑地域交流室 |
| 第3回 理事会 | 令和3年3月下旬 | 友和苑地域交流室 |

<令和2年度 評議員会>

定時評議員会	令和2年6月中旬	友和苑地域交流室
臨時評議員会	令和2年11月上旬	友和苑地域交流室
臨時評議員会	令和3年3月	友和苑地域交流室

<令和2年度行事等計画>

◎夏まつり・・・夏まつりを通じて、入所者、利用者、家族、地域との交流できる機会を計画する。

令和2年8月

◎敬老会・・・家族と入所者、職員と一緒に、入所者の敬老をお祝いする行事を計画する。

※対象施設 特別養護老人ホーム・通所介護・短期入所・ケアハウス・グループホーム

令和2年9月

◎高齢者作品展・・・入所者、利用者の方々が、一生懸命取り組まれた作品を展示し、家族、地域の方々観覧していただく機会として計画する。 令和2年11月

◎年末大掃除・・・家族に参加を呼び掛け、年末に職員も一緒に入所者の居室の掃除を計画し
家族と職員が共同作業を行い、交流を深める場として計画する。

※対象施設 特別養護老人ホーム・ケアハウス・グループホーム 令和2年12月

◎家族交流会・・・施設の役割の理解、介護保険法等の理解など高齢者福祉に関する情報を発信することで多様な地域の福祉ニーズに応えるために計画する。

※対象者 特別養護老人ホーム・在宅サービス・ケアハウス・グループホーム

開催時期 検討中

<施設満足度調査>

利用者または家族を対象に施設を利用していただく上での満足度調査を無記名方式にて実施し、サービスの質の向上に繋がるように取り組むため計画する。

・特別養護老人ホーム	令和2年7月
・在宅サービス（短期入所・通所介護）	令和2年7月
・ケアハウス	令和2年7月
・居宅介護支援事業所	令和2年12月

<介護予防教室>

大垣市から委託を受け、在宅等で生活されている高齢者もしくは家族に対して情報を発信し介護予防につながるように計画する。 ※令和2年度 年間5回計画

<地域ケア会議への参加>

「いきいきサロンにおける認知症啓発」「団地孤立化対応」など、大垣市役所の地域包括支援センターと連携し、地域ケア体制づくり（早期発見・早期対応できる相談、支援体制）に取り組むこととする。

<講師派遣>

大垣女子短期大学、西濃高等特別支援学校等に介護福祉士、歯科衛生士などの職員を講師として派遣する。

<介護支援専門員実務研修見学実習の受入れ>

平成28年9月1日に介護支援専門員実務研修見学実習の受入事業所として登録し、今後介護支援専門員実務研修見学実習を積極的に受け入れていく。

<情報の開示>

平成29年4月施行の社会福祉法人制度改革に伴い、法人の事業運営の透明性の向上として財務諸表の公表等について法律上明記された。ホームページに定款、財務諸表、現況報告書、役員報酬基準を公表する。また、決算資料を事務所へ備え置き、誰でも業務時間内において閲覧できるように取り組む。

<令和2年度検討課題>

1. 特別養護老人ホーム外壁及び屋根の補修工事について

当施設は、平成9年5月に設立され22年が経過しました。経年劣化による外壁塗装の破れや屋根からの雨漏れなどがあり補修を行う必要があると考えています。建物面積が広いため足場の費用だけでも経費が掛かるため外壁と屋根を同時に行いたいと考えています。そのために、来年度での施工を目指し設計士と相談をしながら検討していきたいと思っております。